

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号 15 学校名 岐阜農林高等学校

学校教育目標 (教育方針)	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし、「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。	
3つの方針 (スクールポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	・生命を慈しみ、他を思いやり、社会に貢献する岐農生 ・社会人として必要な基礎・基本を身に付けた岐農生 ・志を高くもち、目標に向かって挑戦し続ける岐農生
	生徒をどう 育てるか 【CP】	・産業界や大学等研究機関と連携した探究活動の推進と、その成果を広く地域に発表する機会の充実 ・海外の学術連携校との交流や世界各地の農業を体験的に学ぶ海外研修の推進 ・望ましい人間関係の形成や責任感・連帯感を涵養する特別活動、部活動の充実
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	・他者と協働しながら主体的に学び、地域の食・農・環境の持続的な発展に貢献する意欲のある生徒 ・高等学校での課題研究を大学でさらに深めようと、自らの可能性に挑戦する向学心・探究心のある生徒 ・学校生活の充実や競技力及び技術の向上、人間形成を目指し、意欲的に部活動に取り組む生徒
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学びを深めるための教科等横断的な学習の推進 ・主体的な生徒を育成するための教育活動の実践 ・伝える力、協働する力、創造する力をもつ自律した生徒の育成 	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	・未来を創る基礎となり、社会で生きる学力の育成
	進路指導	・学びと将来をつなぐ、地域と連携したキャリア教育
	生徒指導	・多様な人とつながり、関わる力の向上と心の教育の充実
	その他	・研究指定「地域産業の担い手育成総合戦略事業」「知財力開発校支援事業」の推進

年度目標				年度末評価(自己評価)				
領域 分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興基本計画で の位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D	
学習指導	・思考力、判断力、表現力を育む主体的な学習態度の育成	8	施策Ⅱ-8	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒の学力を向上させ、高い進路目標を実現するための授業改善に取り組むことを軸とし、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した学習指導と評価の実施に取り組んだ。 ・日々の授業を通じて、生徒一人一人の学力を把握し、必要な指導に取り組む中で、学力不振、欠課時数が多い生徒に対する支援を厚く実施し、学力や学びの姿勢のベースアップに努めた。 ・オンライン学習支援のために、Teamsの使用環境を整えた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ▲思考力・判断力・表現力を育む指導と評価については、生徒が取り組んだ成果のみで評価するのではなく、過程も含めて評価することで、生徒に到達目標を意識させ、より主体的な学びとなるように働きかけることが必要である。 ○学力不振の生徒に対する指導については粘り強く行い、基礎学力の確保に努めた。 ○生徒の学力幅が広い中で、生徒の可能性を高めるための個別最適な指導を心がけた。 	B	
	・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	8	施策Ⅱ-8			<ul style="list-style-type: none"> ・各学年会と連携したLHRやガイダンスを実施し、学年進行での進路意識の向上を目指した。 ・3年学年会と進路支援部、学科が連携し、一人一人の生徒の適性や希望に合った進路実現を目指した。 		<ul style="list-style-type: none"> ○学年進行で継続した進路支援ができるように、学年会と連携した企画の提案、実施をすることができた。 ○担任を中心として個々の生徒に応じた進路支援を行い、進学、就職いずれも高い希望が達成できた。
	・ICTを活用した情報活用能力の育成	9	施策Ⅱ-9			<ul style="list-style-type: none"> ・職業観、勤労観を育成するために、課題研究・インターンシップ等を通して、大学等研究機関や地域産業とつながり、関係を維持することで、生徒の多様な進路希望を踏まえ、適切な進路選択に導くことを目指した。 		<ul style="list-style-type: none"> ▲より高い目標の進路実現を図るため、学校全体での組織的な支援体制と将来の岐阜県の農業と農業教育を支える人材育成の観点での確かな進路支援が求められる。
進路指導	・将来を見据えた主体的な進路選択の支援	13	施策Ⅱ-13	<ul style="list-style-type: none"> ・登校指導、MSリーダーズ活動を通して、挨拶の啓発を行った。 ・心のアンケート、いじめに関するアンケートを通して、生徒の実情を把握した。 ・生徒主体で校則の見直しを進めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ▲全体的には落ち着いたが、規範意識や社会性を育て、学校への帰属意識を高める必要がある。 ○いじめ事案に対して、組織的かつ緻密に対応することができた。 ○生徒の意見を基に校則を見直し、ロードバイク通学や体操服等での登下校を認めることとした。 	B	
	・個々の生徒に応じた進路支援の充実	13	施策Ⅱ-13			<ul style="list-style-type: none"> ・「課題研究」を通して課題発見・解決学習の充実を図り、自発的・創造的な学習態度を身に付けさせた。 ・目指す資質や能力を明確にし、系統的・体系的に大学や研究機関等との連携事業を実施し、科学性の高い研究課題の発見や解決につなげた。 ・農業科職員の研究とプロジェクト学習のレベルアップを行い、地域課題の発掘や地域と連携したプロジェクト活動の推進を図るために職員研修会を実施し、資質向上を図った。 		<ul style="list-style-type: none"> ○「課題研究」における課題発見・課題解決学習の充実により、校内・校外における様々な活動を通して、主体的に取り組む中で自発的・創造的な学習態度を身につけさせることができた。 ○3本柱に基づく特色と活力ある学科作りやキャリア教育を実践することで、地域資源を活用し、産業界や大学等との連携の深化を図ることができた。 ○集合型研修を複数回実施し、基礎から発展的な内容を取り扱い、農業科職員の資質を高めた。
	・将来の地域産業を担う専門的職業人の育成を見据えたキャリア教育の推進	13	施策Ⅱ-13					
生徒指導	・自他の個性を尊重した共感的な人間関係の育成	1	施策Ⅰ-1	<ul style="list-style-type: none"> ・「課題研究」を通して課題発見・解決学習の充実を図り、自発的・創造的な学習態度を身に付けさせた。 ・目指す資質や能力を明確にし、系統的・体系的に大学や研究機関等との連携事業を実施し、科学性の高い研究課題の発見や解決につなげた。 ・農業科職員の研究とプロジェクト学習のレベルアップを行い、地域課題の発掘や地域と連携したプロジェクト活動の推進を図るために職員研修会を実施し、資質向上を図った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ▲全体的には落ち着いたが、規範意識や社会性を育て、学校への帰属意識を高める必要がある。 ○いじめ事案に対して、組織的かつ緻密に対応することができた。 ○生徒の意見を基に校則を見直し、ロードバイク通学や体操服等での登下校を認めることとした。 	B	
	・生徒の安全と命を守る教育の推進と個々に応じた教育相談の充実	1	施策Ⅰ-1					
	・教育活動における自己肯定感や自己有用感の育成	1	施策Ⅰ-1					
農場	・地域資源等や知的財産を活用した探究的な学びの実践	8	施策Ⅱ-8	<ul style="list-style-type: none"> ・「課題研究」を通して課題発見・解決学習の充実を図り、自発的・創造的な学習態度を身に付けさせた。 ・目指す資質や能力を明確にし、系統的・体系的に大学や研究機関等との連携事業を実施し、科学性の高い研究課題の発見や解決につなげた。 ・農業科職員の研究とプロジェクト学習のレベルアップを行い、地域課題の発掘や地域と連携したプロジェクト活動の推進を図るために職員研修会を実施し、資質向上を図った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ▲全体的には落ち着いたが、規範意識や社会性を育て、学校への帰属意識を高める必要がある。 ○いじめ事案に対して、組織的かつ緻密に対応することができた。 ○生徒の意見を基に校則を見直し、ロードバイク通学や体操服等での登下校を認めることとした。 	B	
	・大学や企業等と連携してふるさとの活性化に向けた課題研究の推進	8	施策Ⅱ-8					
	・地域課題の解決に向けた主体的な行動力や実践力の育成	8	施策Ⅱ-8					

来年度に向けての改善方策等

・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるとともに、思考力・判断力・表現力を育む指導と評価を充実させ、生徒の主体的な学びにつながる学習支援を行う。
 ・将来を見据えた主体的な進路選択の支援を行うため、生徒の高い進路目標の実現に向けて、学校全体での組織的な進路支援を進める。
 ・将来の岐阜県の農業と農業教育を支える人材育成の観点から、課題研究・インターンシップ等を通して、大学等の研究機関や地域産業との連携をさらに深める。
 ・様々な教育活動を通して、規範意識や社会性を育てることに留意するとともに、学校への帰属意識を高める取組を充実させる。
 ・県教育委員会の「地域産業の担い手育成総合戦略事業」や特許庁の「知財力開発校支援事業」を通して、専門知識・技術と課題解決能力を兼ね備えた地域産業の担い手（リーダー）を育成する。

学校関係者評価

実施日：令和7年1月31日

・専門の学科を中心に、生徒が体験を通して主体的に学べており、「やりたいこと」に挑戦できる環境が整えられている点が評価できる。特に、多様化する生徒に対しても生徒自らが「学びたいこと」を「見つけられる」支援が行われるなど、個に応じた支援が十分にできていて良い。
 ・学習を積み重ねて高学年時の課題解決学習（課題研究）につなげられている。個に応じた支援が行われている成果により、卒業後の進路では学科の学びに関連した大学等への進学や就職が多く見られる。
 ・一人一人の可能性を伸ばす教育が行われている。探究的な学習の中で「失敗から学ぶ」ことを大切にし、どうすればよいかを考えさせる教育活動を通して、生徒たちが楽しく、たくましく成長できている。
 ・地域との結びつきを大切にしており、柿やホタルを研究の題材にするなど、地域と密着した教育が行われている。身近な課題を教材にして、さらに地域の学校として教育の充実を図ってほしい。
 ・答えがない課題が多いと言われる現代において、実践的に学び、答えを導き出す学びの過程は、生徒が将来を生きる力の育成につながっており、素晴らしい。